教育目標			元気でよく遊ぶ、心あたたかい子どもの育成 ○心も体も元気な子　○自分をいきいきと表現する子　○互いを認め合い思いやる子　○仲間と共に育つ子					
保育の視点			心豊かに自ら遊び込む子どもを目指して　～『自立』を支える教師の援助～					
項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	教育課程 研究推進	・教育課程の再編成 ・子どもの豊かな心を育む保育の実践 ・幼小の連携を意識した保育の展開	・３年保育５歳児の教育課程を重点的に、また、３，４歳児についても見直していく。 ・日々の保育から遊び込む子どもの心の動きを捉え、その子どもを支えるためのポイントを探る。 ・幼小連携を図るために職員同士が互いの授業や保育を見合う機会を設ける。また、園内研究会などを通して学びを深める。	・今年度の子どもの姿から職員で意見を出し合い、教育課程を再編成する。また、５歳児の検証をする。 ・学期に２回程度事例研究を行い、幼児理解を深め、教師の役割のポイントについて学び合う。 ・共同研究園とともに研究テーマにせまっていけるよう、園内研究会や共同研修会などを計画的に推進する。 ・「子どもは幼稚園でやりたい遊びを見つけ、存分に遊んでいる」の保護者アンケートのＡＢ評価が８０％になるようにする。 ・幼小の職員で意見交換を行い、共通理解する。また、それぞれの授業や保育に活かす。幼小交流の計画を元に実践する。	A	・意見を出し合いながら各期ごと、学年ごとに見直すことができた。 ５歳児と、3 歳 4 歳 5 歳のつながりの検証については、研究推進で作成したエピソードを教育課程に照らし合わせ、見直すことができた。今後は作成した教育課程を伊丹市全園で使用しながら見直すので、そのポイントや視点を考えていく必要がある。 ・保護者アンケートでは、AB 合わせて 90%以上が子供は幼稚園でやりたい遊びを見つけ存分に遊んでいると捉えられており、一人一人の思いを大切にした保育の取り組みが、子どもが遊び込む姿につながっていると考えられる。 ・共同研究園と講師を招聘した園内研を計画的に実施した。園内では市内公開保育を行った。子供が夢を叶えることができる保育を全職員で共通理解し、子供の育ちを喜び合うことができた。 ・知りたいことがあるという目的意識をもち小学校に行くことで、小学校の魅力を感じ期待をもつ姿が見られた。 ・互いに保育公開や授業見学に行き、研修会にも参加できた。今後も、十分に意見交換をしながら連携し、見守っていく必要がある。	・各期、学年ごとに今後も見直しをし、職員で共有していく必要がある。 ・職員会の中で短期案の話をしながら子どもの姿を元に育ちを共有していく。 ・共同研究園とともに引き続き「遊び込む子どもの育成」というテーマで研究を進め、さらには、遊び込むためのポイントとなる教師の役割を具体にしていくことができるよう、互いの保育を見合い、エピソード研修を積み重ねていく。 ・保護者にもクラスだよりや google 配信や懇談会や掲示などを通して子どもの成長を適宜伝えていく。 ・今後、年度初めに計画を立て、子どもの姿を見ながら交流していく必要がある。 様子を見ながら連携し、細かく連絡をとりあう。 ・引き続き研修会などに参加しながら計画を見直し、実践していく必要がある。	**研究や研修の成果が子供の遊び込む姿となってあらわれている。引き続き共同研究園や小学校と連携し、実践していっていただきたい。また、子供の様子を発信するためのホームページやクラス便りも工夫していっていただきたい。**
豊かな心・健やかな体	健康教育	・基本的生活習慣の確立 ・感染症予防に努める	・子どもが必要感をもって自ら身体を大切にしようとする姿になるよう、担任と養護教諭が連携し、保健指導（ほけんの話）を行う。また、その内容を基に、意識して取り組むことができるよう、げんきカレンダーにも取り組んでいく。 ・園児への保健指導、保護者向けのほけんだよりで健康課題について啓発していく。 ・「自分の体は自分で守る」ことを意識できるよう、視覚的教材等を活用し、啓発しながら自分の身体について興味関心をもちながら、生活習慣の自立につながるようにする。	・子どもが自分の身体に関心をもち、大切にしようとする気持ちを育む保育について取り組む。 「子どもは、基本的生活習慣が身につくように取り組んでいる」の保護者アンケートの AB 評価が８０％以上になるようにする。 ・定期的に家庭と連携を取りながらげんきカレンダーに取り組んでいく。 ・月１回実施するほけんの話の内容についてホームページに掲載する。 ・規則正しい生活習慣を身につけ、自ら、感染症予防ができるようにする。 ・「子どもは自ら自分の身体を大切にし、身の回りのことを自分で行うことができる。」の保護者アンケートの AB の評価が８０％以上になるようにする。	A	・トイレ習慣や姿勢、ハンカチの始末等について、養護教諭とクラス保育で連携し、子ども達が必要感をもって自ら自分の身体を大切にしようとするための保育を実践することができた。実践の内容については２月の保健大会で発表した。 ・アンケート結果は AB 合わせて１００％の評価を得ている。 ・「げんきカレンダー」の取り組みについては、子どもの実態からの課題に沿い、取り組むことが出来た。保護者のコメント欄から家庭でも意識づいていることがよくわかる。 ・親子で健康に関する意識を高めるきっかけとなるよう、ほけんの話をした日に、その内容をホワイトボードで掲示し、HP にも掲載した。また、教師がトイレの使い方・姿勢・ハンカチの始末について、ロールプレイングの動画を作成し、Google で配信する等、取り組んだ。 ・ほけんの話を毎月 1 回子どもの実態に合わせて実施することができた。視覚支援教材を用いてわかりやすく伝えることで、ほけんの話の後に自ら意識して「自分の体を自分で守ろう」とする子どもが増えた。	・「自分の身体を自分で大切にする」ことについての全体に対する成果は一定見えてきている。しかし、個別に幼稚園での指導方法や取り組みを丁寧に伝える必要がある。今後も園と家庭が協力し、子どもの健やかな成長を支えていくようにする。 ・「げんきカレンダー」の取り組みは子ども自身の意識を高めるためにも必要なので定期的な活用を継続する。 ・家庭との連携は必須であるので、ほけんの話の内容を保護者に掲示したり、HP で掲載、動画を作成し配信する等の取り組みを今後も継続していく。 ・保健だよりやげんきカレンダーの内容に感染症予防や健康教育の課題を取り入れ、家庭と連携して子どもが自分の身体に関心を持ち大切にできるよう、保護者啓発を行っていく。	「げんきカレンダー」の定期的な活用は、保護者への啓発にもなり、大変よい。 アンケートの肯定意見 100 % 保健大会での発表等家庭と園での取り組みが子供達の意識と生活習慣に現れている。引き続き取り組んでいただきたい。
	人権教育	・人との関わりや伝え合いに視点を置いた保育実践	・子ども、保護者ともに互いに認め合える人間関係を築くことができるよう園が拠点となって呼びかけていく。 ・花や野菜の生長や身近な生き物の命に思いを寄せられるよう、環境を整え収穫の喜びや命の尊さ等を感じられるようにする。	・子どもへは日々の生活の中で自分の気持ちや友達の思いなどを振り返り気付く機会をもつ。 ・保護者へは学級懇談会や研修の機会に自身の子育てを振り返り、いろいろな立場の人の考えに触れられるような場を設定する。 ・花や野菜の生長や身近な生き物の命に思いを寄せられるよう、環境を整える。 ・飼育栽培活動を行い、命を大切にする経験ができるようにする。	B	・カンファレンスを通して、幼児の思いを読み取る大切さを職員間で共通にし、一人一人の気持ちを大切にする保育に努めた。 ・いのちの安全教育という観点から全保護者を対象に書面研修を呼びかけ、学級懇談会を通じて、様々な考えに触れてもらい、子育てにも関わるものであるということを啓発することができた。 ・夏には野菜や花を、冬には春に咲く花を栽培している。幼児が栽培の準備をする機会をあまりもてていないが、飼育に関しては、昆虫の飼育を通して命の大切さにふれることができた。	・今後も一人一人を大切にする保育に努められるよう、教師間で共通理解を図る。 ・書面研修やクラス懇談で語り合うことで、子育てや保育の中での気付きがあった。今後も研修や懇談会の場をもち、理解を深めていけるよう努めていく。 ・飼育、栽培活動において、準備の段階から植物の成長や生き物の命の大切さに気付いて幼児自らが行動したくなるように計画的に保育に取り入れていく。	今後も保護者研修や懇談会を工夫し、一人一人を大切にする保育を進めて頂きたい。飼育栽培活動を遊びの中に取り入れ自然と命の大切さに気づく環境作りを行ってほしい。
	特別支援教育	・子ども一人ひとりの特性に応じた保育の実践	・幼児理解に努め、子ども同士のつながりや一人一人の育ちにつながるよう支援していく。 ・地域の特別支援教育の拠点として、特別支援教育に関する保育や情報を積極的に発信する。	・子どもの姿に応じて、具体的な支援方法や保育内容を検討し、実践する。また、保護者と園の取り組みや家庭での様子を伝え合い、園と家庭が連携して子どもを支えることができるようにする。 ・コンサルテーション等を活用し、園内だけでなく他方面からの子どものとらえと支援方法を検討していく。 ・にじいろ広場の保育の様子を地域の就学前施設に公開し、参加の呼びかけをする。またにじいろだよりを発行し、にじいろ広場の遊びのねらいを保護者や教職員に明確にわるようにする。 ・特別支援教育の研修会への参加や保護者研修会を実施し、保護者、教職員共に子どもとの関わりや支援方法をより深く学ぶ。	B	・職員間で連携し、丁寧に子ども一人一人の育ちや課題を共有する時間をもってきたことで指針を定めて関わることができた。 ・コンサルテーションや、園内研修会を行い、多方面から子どものとらえと支援方法を学ぶことができた。 ・にじいろ広場を年間予定通り８回開催することができた。今年度より、保護者には保育前に遊びのねらいについて知らせ、保育後には、育つ力について等、振り返りながら考える時間をもってきた。併せてにじいろだよりとして資料配布することで、理解を促すことができた。 ・保護者には園での様子や取り組みを伝え、家庭での様子も聞くことにより、園と家庭の連携を心掛けてきた。 ・年間２回保護者研修会を実地し、保護者・教職員共に、就学に関すること、また、子どもとの関わり等をより深く学ぶことができた。	・コンサルテーションや園内研修会において、具体的な手立てを学び、日々の保育に繋がった。今後も講師を招聘したり、巡回相談などを活用したりして子どもの育ちを支えていく。 ・拠点園として、近隣の園への声かけを重ねてきた。少しずつ参加が増えてきている。今後も、図書や遊具の貸出・にじいろ広場の見学など、情報提供を行い、多くの利用や参加を促す。	にじいろ広場での保護者とのねらいと振り返りの共有はよい取り組みである。 家庭、園関係機関と更なる連携を図り、一人一人の子供に応じた保育を実践していただきたい。

開かれ信頼される学校園	保護者・地域との連携	・教育への理解へと繋がるような保護者、地域との連携	・預かり保育等子育て支援の充実を図るため、さらに保護者、地域、園の連携を強める ・担当者と担任とで必要な引き継ぎを行うことで連携を密に図り、必要に応じて各職員もサポートに入って共に子どもの様子を見ながら共通理解を図る。 ・保護者との連携の取り方を工夫し、園の様子を発信することで園教育への理解を図ると共に、必要に応じて気軽に子育ての話ができるような体制を作る。	・保護者アンケートの「幼稚園は開かれた園として職員に子育て矢保育についての相談や話がしやすい環境である」の項目のAB評価が８０%以上になるようにする。 ・子ども達がいきいきと遊ぶためには環境が大切であることを伝えると共に、地域やPTAと連携し保護者と一緒に園の環境整備を行う。 ・HP や動画等その時々に応じた方法を工夫し、園の教育や大切にしていること、園児の様子等を発信する。	B	・必要に応じて預かり担当以外の職員も関わりながら職員間で連携を取り合い、預かり保育の充実に努めた。保護者の就労が増加傾向にあり、保護者のニーズに答えるよう努めてきたことで、AB評価が８１%の評価を得た。今後も安全管理に配慮しながら取り組んでいく。 ・PTA 活動や保護者のサークル活動を中心に、絵本の読み聞かせや掲示板の装飾等、また、園の環境整備、運動会ややきいも大会のなどに力を借り、連携しながら共に保育に取り組んできた。 ・ｸﾗｽ便り、HP、動画配信等で園の様子を発信してきた。保護者アンケートにおいてもABの評価が９１%であった。	・引き続き、担当者との連携を密に図りながら必要に応じて全職員で預かり保育に関わることで子育て支援の充実に取り組んでいく。 ・PTA活動の内容を精選し、業務縮小に努めていくと共に今後も保護者の得意分野を活かし、保護者と連携を取りながら、園をよりよくしていく。 ・小学校、保育所、地域との連携を密にし、研修会や園児の交流の仕方などを模索し、拠点園として発信を続けていく。	保護者や地域とのつながりを大切にした保育が行われ、情報発信についても保護者から肯定評価を得ている。引き続き保護者、地域と連携して取り組んでいただきたい。
その他	安全管理	・安全で過ごしやすい生活の場としての環境作り	・安全点検日を園だよりに記載して位置づけ、職員の意識向上を図る。 ・様々な場面を想定した避難訓練を行い、安全について子どもと考える機会を定期的に設ける。 ・保護者、地域と共に安全な環境作りに努める。	・月１回安全点検を行うことで、全職員の目で日頃から安全管理に努め、遊具や用具、園庭や保育室内を常に安全に保つ。 ・学期に１回以上の避難訓練を実施し、子どもが自分で自分の身を守る方法を知る。 ・保護者や地域の方の協力も得て園庭清掃に取り組む。(8月・3月予定)	B	・月１回の安全点検を行い、修繕箇所についてはすぐに連絡調整を行い改善に努めた。 ・保護者アンケートで「こどもの安全に関する適切な指導が行われている」という項目のAB評価が１００%であった。 ・年間計画に加え、必要に応じて避難訓練を実施したり、安全教育を取り入れたりしたことで、子供達自身が緊急時に自分の命を自分で守ろうとする意識をもち、周りの大人の指示に従い行動できるようになっている。 ・防犯訓練として伊丹警察と連携し防犯訓練を実施した。 ・園庭の環境整備の為保護者や地域の方の協力を得て園庭清掃を行うことが出来た。	・園舎や園庭を含めて老朽化もあり、いたる所で不具合が出てきているので、月１回の安全点検以外の日々の生活の中で常に安全意識を持ち、改善箇所については速やかに伝え、共通理解出来るようにする。 ・引き続き震災や不審者対応等に備え、教職員で緊急時の対応について共通理解を図り、必要に応じてその都度訓練を実施しし、子供達が自分で命を守ろうとする意識を高めていく。 ・最近、様々な形の事件が増えているので、職員は常に意識するとともにいざという時の連携体制を整えておく。 ・幼稚園で講じている安全教育や安全対策について保護者にも定期的に啓発し、園内園外問わず子どもを取り巻く大人が子どもを守るという意識を高める事が出来るように働きかける。	安全教育や避難訓練の実施により、子供達の意識も高まってきている。いろいろな場面を想定した安全教育を続けていただきたい。また、自分自身の危険を発信できる子供を育てていただきたい
総合評価	・保護者、地域関係機関と連携し、「元気でよく遊び心あたたかな子どもの育成」に取り組んでこられた。子供達が互いに認め合い、協力し合いながら夢中になって遊ぶ姿、いきいきと生活する姿は園の丁寧な保育の成果である。来年度も引き続き心豊かで自ら遊び込む子どもの育成に取り組んでいただきたい。 ・保幼小中家庭地域との連携における拠点園としての取り組みを充実させていただきたい。 ・全体的に保護者からの評価は高い。幼稚園と家庭との連携に力を入れていることでの成果である。 ・教育内容についても子供達の育ちを捉え、しっかりと計画を立てて教育されていることがうかがえる。公開保育にも参加したが、一人一人の子供達の興味関心がもてる遊びが、保育室や園庭に用意され、誰一人として遊べていない子供がいなかったことや、好きな場所で好きなことができる環境づくりにも力を注いでいることも高く評価できる。							